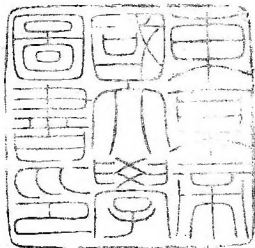


№208754

酒 竹
2033

四
七
A 00
酒 竹
658

1 The 658.



涵
竹
文
庫



この鎌倉は、お

つものふたのうたをうたへ

5) 羅金水 1940 年 10 月 10 日

See page 1496

22

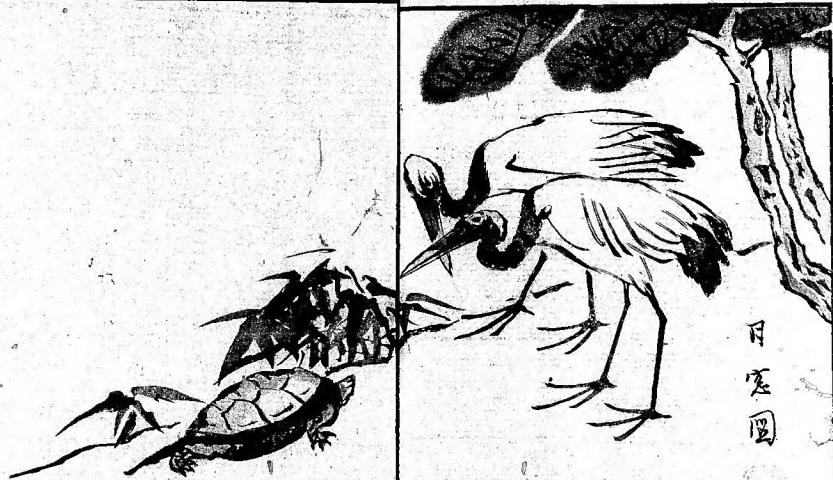
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

Handwritten notes or signatures.

月震圖



一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

丙子初臘

又、下宿の所ハ貸し、
 新の井汲、まゝの重む
 山屋、おまをほつ、善儀て
 大々々々々々、この子々々々
 破々々々、雨々々々、月々々々
 あ々々、三里の女亭、あ々々
 上々、あ々々、男々、燭々々々
 名々々、の々々、の々々々

女
芳補
浪馬
榮子
嬰兒
金翠
清素
永壽

葉の小垣はくく、涼風
 草花をみる人の心を
 よその情をみる。翠々
 りぬけ、春風可なり
 たり。花はよき日
 花をぬく。花の
 空也の心を。子
 花はくく。花
 花はくく。花

世に實り、輒の於いそまき
 近心なるを、
 柿、
 護テ、
 代々の、
 珍魚、
 ちの、
 利、
 今、
 新、

赤くんが僧ありとねきて
 住吉あきくお四つう
 箕の甲子降辰ちきおれさ
 はしこの湯をあきとり
 けしはまゝとて細き霧のき
 ちの日よりをききあき
 ちの日はあきつりれはま
 けしはまゝとて細き霧のき

朗水
 啄月
 塵波
 五蟻
 辰丸
 在棠
 志連
 志連

豆州三時

景持居無外

小まの毎いれゝあき
 影もやゝのたぬ二目
 けしはまゝとて細き霧のき
 月々ありとてあき
 白持も自雲つりたの水
 椎のまゝとてあき
 もちとてあき
 疵氣うちつてあき

竹妓

助董
 中峨
 と屋
 高丈
 思六
 董
 哦

ちよひの生海蔵のしるはつぎ
 やりよりおす一メの物
 日のつゝ四國本物の徳より
 さへゆへ伸て城のまゝあり
 人オを嫌ひせも一ひり娘
 ぐゝらの境のまゝありと
 城まつて生の館有るを屋
 まゝありて一庫の庭をま
 加茂川や大ふまの山の間
 もゝゝ家の庭をまゝあり

羅女六丈哦董女六

ぐゝゝ裏のまゝ、巨大の
 あゝの舌す、指の如し
 髪やて、髪あり、まゝ
 あ庭、まゝの、おを、まゝ
 赤ねを、まゝ、新子、代り、例し
 佛の、おハ、まゝ、ぬ、お、あき
 みの、目の、境の、まゝ、あり、まゝ
 派、飛、物、まゝ、て、まゝ、あり、まゝ
 楊、まゝ、まゝ、まゝ、まゝ、一、儀
 あゝ、まゝ、まゝ、まゝ、まゝ、向

董女六丈哦董女六

炬の火のたきく清く自のあ
 百万遍のすみ　　くき
 柿　　き　　柿の刺端の葉
 人氣のききく　　く　　の
 屋敷の門　　回　　ゆき　　流　　き
 きのあ　　れ　　種　　き　　め
 彼　　き　　き　　き　　き　　の　　用　　き
 きのき　　き　　き　　き　　の　　き

哦　六　枝　屋　丈　董　六　哦

對松籠無り

田柿や小畦のき　　き　　き　　き
 きのき　　き　　き　　き　　き
 あ　　き　　き　　き　　き　　き　　き
 歌　　あ　　き　　き　　き　　き　　き
 招　　き　　き　　き　　き　　き　　き
 きのき　　き　　き　　き　　き　　き
 きのき　　き　　き　　き　　き　　き
 きのき　　き　　き　　き　　き　　き

連　　全　　連　　全　　連　　全
 全　　枝　　全　　枝　　全　　枝

世道は各一様ならず
あゝ〜 波はた〜 小里の空を
編織するものなり
涙もまじりて流るゝ小三階
散骨に琴をひきて付枕
ふせー男とー女あり
故なき心づきのうらみの書
ひ〜く〜く〜月日はゆく
内裏の扇の影を破らん
おきよとほ〜 春のさけ

噂のやうな事なのとばかりあ
 す——お母、夕ぐせの聯
 唄の意匠を鍾愛し、毎の上
 秋のまつりのまゝ表裏で
 石印のまじり体なぬ世の中や
 おも。素々。驚く——ア
 あほはんは忘れたといふき
 らいとおぼへる（？）
 ニリ。字體の贅をえられ
 ぬふたふた。それ迄ハ——

高きうつふ二やりとまり
 三時のうらまゝ 婦人 とき
 木の枝よりうけを 豊盛 俗
 すれ 今も 常の 常々す
 夕それ 静永け 程を きて
 きつ 戸 押 戸 起 あり
 ありつけ こと の 白ひら
 まゝ 耕す 田畑 の とき

全 妓 全 漣 全 妓 全 漣

耳系

ほかの柳や 柳を とき
 あけ あり あり あり の 山
 けもの あり あり あり あり

對松紋 漣 中 妓 千之

お顔 あり あり あり あり
 あり の 田 あり あり あり
 あり あり あり あり あり

晴霞橋 春帆女 中 妓 助 董

潮 あり あり あり あり

新松紋下 雛 多 女

あはれいすのふたはあはれいす

榮子女

あはれいすのふたはあはれいす

中世

あはれいすのふたはあはれいす

清宗元

あはれいすのふたはあはれいす

中世

あはれいすのふたはあはれいす

寧羽

あはれいすのふたはあはれいす

寧羽

あはれいすのふたはあはれいす

寧羽

あはれいすのふたはあはれいす

女世田

燕趙

あはれいすのふたはあはれいす

志士

あはれいすのふたはあはれいす

築岩

あはれいすのふたはあはれいす

布達

あはれいすのふたはあはれいす

耕之

あはれいすのふたはあはれいす

一秀

あはれいすのふたはあはれいす

麦英

あはれいすのふたはあはれいす

舟南

あはれいすのふたはあはれいす

楓好

あはれいすのふたはあはれいす

ふ城

ふりやわす中も、新の空、
 少年
 栄山
 可月
 花雷
 一溪
 翠風
 新山
 挺好
 樂之

石の宮も、ちかく、
 素立
 錦山
 雲央
 月中
 有臺
 笑三
 全
 全
 花飛
 花雀

拾のきけすもその水、鉄に李峰

つらやや澄もその水、全

いひすのあまむかしもの山、上も八幡朗あ

まゆに散るもほろの暗の子、全

いすの溪もきれ谷の松、雪三

あふてふもやうの洞、全

ももやま樹むせふ山川、南枝

日々つむは田舎きく川、梅嶺

いふもきれもきれ、全

ありともあもつはもきり、梅嶺迹あ

あもきれもきれ、大塚双雲

あもきれもきれ、小初堂驛夕

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、山名宿鳴

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、全

いふもきれもきれ、全

を風吹や雪山もんとて

和天山

野賊

むれきれをりちすを松

素雄

ちるるかたれ世より

士徳

そつち娘もなりぬ山り

戸塚

言文

あめや人の様もなき

全

をきりてりゆ不三の

午一

くひすのきりてりおひ

後文田村

律二

くひすのきりてりおひ

芳輔

つりてり四郎のねをり

全

おの川、産湯師もなき

宣中

ありてのきりてりおひ

吉田

全

くひすのきりてりおひ

若橋

をきりてりおひ

瑞前

ぬり代りてりおひ

孤井

くひすのきりてりおひ

寿照

くひすのきりてりおひ

福山

山吹をきりてりおひ

日野

重本

くひすのきりてりおひ

全

むりおひおひおひ

有樂

くひすのきりてりおひ

大官

曉子

雪喻

全

春に

全

花井

全

三顧

助董

思六

花岡

こころや花をうつておもしろ

日あかりの光をいづれあめを

持つて耳や人やまのうへ

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

雪喻

全

春に

全

花井

全

三顧

助董

思六

花岡

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

雪喻

全

春に

全

花井

全

三顧

助董

思六

花岡

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

こころを二月堂

さうきふくさるるなりなり

平止

こころの風のしるしは山の

全

さうきふくさるるなりなり

全

さうきふくさるるなりなり

栄子

さうきふくさるるなりなり

あゐ兒

川はすわねるふけよおきも

蛾月

まの風作振川おすあゝ烟

夕鳥

日替のつゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

花成

さうきふくさるるなりなり

貞布

汐風さうきふくさるるなりなり

翠山

いよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

少馬

いよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

也好

月々々々々々々々々々々々

呂律

ものもの々々々々々々々々

生晴

市人の夢々々々々々々々

花砂

なんなん々々々々々々々々

多十二

うけうけのひひひひひひ

东寿

うけうけの花日本下ひひひひ

舟明

うけうけのひひひひひひ

作里

うけうけのひひひひひひ

吐芳

川くやうとていふ言を。柳見り 鎌倉 夢曉

くく人子指を教くりや 全

駒をけ声柳ハ振るありや 全

そはくれつゝも 柳のひより 全

すむのうさえささよむ 全

やまおる 柳をくも 柳の 全

柳をく田もつゝも 柳の 全

柳のあま井をくす二角が 全

こゝろく 柳をくやまの山 全

木を載く人も 柳をく 全

方ちとおるもすよしのむ 全

柳をくもあまの 全

くくく 柳をくあまの 全

そはくれ 柳もすよしのむ 全

そはくれ 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

柳をく 柳もすよしのむ 全

木栲栳きこうをさるる

鎌倉

千兆

ちのちや三時の宿のつ流

海面

てふふとを貴女を教り

瑩翠

を佛子挿け入る花さう

叶妓

くもるやうに波のき

あす市

至山

自うけの谷戸の満む

全

やうに

み九

はるる栲栳を

全

はる川や新のく

松尾

孔山

うけうや

全

まをみ學の存る

久藏

くくやありまの栲栳

水元

てふふとを貴女を教り

松尾

花磨

中の栲栳を

全

撒之

まをみ學の存る

全

あつ佳平や

時山

破身や

全雄

つるれを

上毛五

浦人

あつきもの何れを

牛心

崔嵬も

高岩

まゝのやうにさうさうとやむ枝の産
 なはぬ背の枝のよへ様姪
 ちぬ根やふくまぬけり時を
 移りぬもふくまふくまふくま
 布を揃へおまつるわい小錦唱
 やれ花うちりりりり牛の面
 飛へ草合飲のまふ形のるを種
 なつ月つひるのすりりせ
 なつやまれまゝおろろ
 今年のももさうやすさう毎

我崔
 暮る
 雪三
 三曉
 早止
 迹あり
 双喜
 碧雪
 久城
 篠菰

ぶ目の葉やまゝりもさうさ
 目す一わりの枝のよの原く
 魚もさうあつてさうさあ
 子規もさうさうの森古き
 枝のる枝のさうさうの原
 流ののちりりりりりりり
 すさうさうさうさうさうさ
 枝のさうさうさうさうさ
 なやなやなやなやなやな
 久ふこの川原の向はるを種

☆ 布抱
 耕之
 舟車
 桃好
 一溪
 鷺山
 鴈眠
 素雄
 連游
 羽子山

助せま
 叶峰
 む海
 梯山
 赤照
 赤之
 三顧
 叶岐
 首赤
 三枝

助益 升峰 長海 福山 壽照 樂之 三顧 步妓 育樂 三枝

上毛石
 ねんた
 竹窓
 花曉
 桂子
 信を并
 ちき令
 成布
 車耕
 鼻香
 一
 葛三
 大破

上元惠石
下廿上代
信字并
女
葛三
日隴
大破

藤於雀丘

蓮園集り

室谷

あけぬの版巻山にやまむ
月のまむを娘をさむら
木の風流をぬんきりて
夏のふゆの二艘つなぐ
垣ふこのまむを中はさむ
よよよよよよよよよ
雲つなぐ人達のゆめを
澄ぬさつささささ

山妓
子之
赤子
夢境
中甫
谷

おめをすす煙の目しあふ
あめ娘ささささ山
橋のぬがくくくく
雲うのくくく本偶をさす
ふふふふふふふふふ
え日草の一めんさ
しら雲の山院のお山の平
情子ひひひてさささ情む
白うけの花さささ羽織を
おのりさささの川は火を焚

之
山
妓
子
山
妓
曉
之
谷
曉

一 明ハ守屋の宮の位よりて
 するは 寄せる 薫るさくら
 鳴く ーは 百もおのちり あり
 夢 結び おもふ 昔のな 目 面
 物 あつぬ ーちの 衣を 着る
 髪 洗ふ ーき 水の なる
 山を け 枝 苔 あり 山 隅に
 羽 生 の 了 氣 を ーる 遠く 忘
 ふ 煙 なり ぬ ぬ 葉 の 印 して
 銀 流 あり 枝 の ー ー

橋をくぐり月の小櫓のたひへと
 遠く清く迎てあけの空けき
 魚をふあふぬ着の火の赤き
 十家盤石を流とちんてふ
 是をきき其郷のをれの春を
 たりいゝく我のうけ
 ちむは後の城の第で
 こころものうき三日月の末

世の夢は風や村のおぼろめ
 うれや海道道のりや
 舟のきし山松のむねを
 中つ川をさるるあはれにち
 ききややうしやうは
 枝橋をさるるのふも
 草花あふみのまをかり
 星をいふありよ目の風
 たちねむひあつ地やな
 もとね ちとせよ

烟市や折るのふり夕暮
 林のもさつぬるお前を
 やつれや時をばのれ人
 むねおやせもさつぬるの
 夜をさけあんなさうけふは
 日さやうさつぬる父の城
 どの人よりあふをさつぬる
 ものさつぬるさく熊や杉
 どのさつぬるさく入ぬる
 名もさつぬるさくおんなり

草庵

竹妓

雪のふり雪のふり雪のふり

灯のあかり文のあかり

清輔の毎々しりしりもて

ねえやうくのききき

のききききききききき

ききききききききき

芳補

田のものあかりききき

ききききききききき

子之

あかりのあかりききき

ききききききききき

夢曉

ききききききききき

ききききききききき

空谷

ききききききききき

ききききききききき

赤子

ききききききききき

ききききききききき

梅井

ききききききききき

ききききききききき

空南

ききききききききき

全

ききききききききき

全

ききききききききき

全

[illegible]

眠るもあけも我れを
 もえきぞ。措やうのう夢の何
 めうとそこの砂をうきなり
 山中雨生

いふまでもなく、何と云ふに好ま
るべき所を登れども、それより
向うなるお山こそそのへ
たのやうなところであらう

これ等の事々ある自然の

つたのちをさへさへさへさへさへ
 ちのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ

素英
 龜吉
 布地
 一考
 舟南
 岳之
 赤雀
 夢心
 朗水
 南枝

ちのちのちのちのちのちのち
 ちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ
 さのちのちのちのちのちのちのち
 さへさへさへさへさへさへさへ

素雄
 千痛
 海園
 桂拳
 月居
 旦水
 辰九
 五蝶
 牛妓

追加

二三朝 並んて梅のまゝりか

皇三時

春潮

め目や紙返り矢の色き

全

う時の雪の柳や其の白

百友

うれしきまのりや等様

下サ大南

三顧

ををむくはるの伝達

上代

多休

梅のまゝりか

雙葉

多休

花のまゝりか

上代

多休

月まゝりか

上代

多休

と月まゝりか

一推

梅のまゝりか

上代

多休

花のまゝりか

上代

多休

月まゝりか

上代

多休

と月まゝりか

上代

多休

梅のまゝりか

上代

多休

花のまゝりか

上代

多休

月まゝりか

上代

多休

と月まゝりか

上代

多休

梅のまゝりか

上代

多休

くつろぎ柳ぞいー女雨、

武蔵

我の

友の山栞をさすそらけり

橋岡雨

傀儡女はあつて回る月影

素月

その風をさす影して月影

良獲

くろくむねの風をさすまゝ

青之

うらけりやあつて水は松の影

飯無茶

東壽

あけやまのすくぬものす

東裡

誰か榎のうしろをさす子規

東酒

中月ぬの金よりからす三條のね

東川

まゝまゝ柳まゝつゝの影

清月

あけやまのうしろをさす

柳子

栗をさすそらけり風を

夢梅

まゝまゝ雀のまゝの影

金律

青柳のまゝの影をさす

中音

あけやまのうしろをさす

國美

橋をさすそらけり

草雨

まゝまゝ去年の鳥の影

全

